

自治人事制度検討委員会（第7回）

議 事 要 旨

1 日時 平成22年12月17日（金） 15:00～17:00

2 場所 市役所2階 政策会議室

3 出席者（敬称略）

中根正介（委員長）、瀬野弘志、西川幸孝、波田野浩平、原田孝彦、本多克弘、
安達橘恭

4 議事経過

(1) 委員長あいさつ

委員会の狙いは単に職員の給与を引き下げることではなく、今言われている地方分権という、地方独自の問題解決を職員自らがやらなければいけない時代の中で、そういったことができる人材をどのように育てていくかということが大きなポイントの一つである。市ではそうした観点で、平成19年に人材育成基本方針を作っているが、それが十分に機能しているかについても説明を聞いた後で意見をお願いしたい。

(2) 人材育成基本方針について

事務局が新城市人材育成基本方針について説明した。

(3) 意見交換

出された意見等は次のとおり

- 求められる職員像を全職員に自覚してもらわないといけないと思うが、職員に浸透していないように思える。いい計画はできるがそれが定着していない。何が阻害要因になって、具体化につながらないのか。
→この人材育成基本方針に基づいて職員研修を行っている。方針は国が作れというので作ったという面があるかもしれない。検証して改めていく。
- 研修は外部へ行って知識をつけなければいけないということばかりではない。市民との関係については内部で十分研修できるのではないか。
- 市も民間と同じに必要な知識・技能は習得してもらわなければ大事な市民サービスができない。その厳しさみたいなものに欠けているのではないか。
- 一人ひとりが見識を持つことは大切であるが公務員は組織に属するので、組織としてポリシーや哲学を持ち、組織全体で業務を遂行することが必要である。
- 人材計画は企業でいえば主要なところである。どういうサービスを提供していくか、どういう経営をしていくかということに等しい。そうしたレベルで考えるべきである。
- この方針の中味は悪くない。完璧なものは最初からはできないので、常に見直してさらに良いものにしていくことが必要である。
- 職員が市の政策や施策について分かっていない。だから何をやっていいかわからないのではないか。
- 研修したら職員が理解したか確認することが必要である。教育をしたら訓練をして、訓練をしたらテストをして研修の結果を確認しないとイケない。研修をした、教育をした、だからできるだろうというのは大きな過ちを犯してしまう。

- 人事考課がうまく生かされるか、というのが人材育成の決め手といえるのではないか。
- 人材育成の担当部署を明確にしないとフォローのしようが無い。担当部署が責任を持って取り組んでいくことが必要である。

(4) 協議結果

人材育成基本方針は、地方自治を支える根幹であるという認識は共有した。

市は、国の通達に基づいて作ってはいるが、職員に定着していない。一方、誰が考えても人材育成基本方針の大きなポイントは、そう変わったものではないのではないかと思うので、中味を若干見直してはどうか。一つ足りないところは人事考課の結果が反映されるようになっていないので、今のものをベースにして、事務局のワーキングで原案を作成し、再度協議する。

(5) これまでの会議で指摘のあった問題点の確認

事務局がこれまでに指摘のあった問題点について説明した。

(6) 事務局の説明で抜けているものの確認及び意見交換

出された意見等は次のとおり

- 類似団体に比べ職員が多いのではないかとということであるが、消防職員については北設楽郡の町村が見るべき職員を含んでいる。保育園も全て公立という特殊性がある。そうしたことも考慮し、他市と比較できる数字を出してもらわないと本当の判断ができない。
- 市の職員の実態が市民に十分理解されていない。情報開示が十分でないところから不信感や疑念が生まれることになる。
- 民間給与の実態調査は難しく簡単に比較できないが、総合的に見ると職員の処遇は優位にあるという自覚を持ってもらうことが必要である。
- がんばった職員が報われる処遇をしなければいけない。
- 時間外勤務の実績把握は難しい。民間でも仕事の実績が評価につながったりするので、帰ったことにして仕事をしていることもある。
- 国税庁が毎年民間給与の調査をしており、去年は給与収入が5.5%減った。これに対し、人事院の民間給与調査では0.19%の減となっている。人事院は中小企業の調査もやっているが大企業のサンプルしか残らない。そこに乖離が生じる原因がある。
- 民間の給与体系が大きく変わっているので、独自に若者に魅力的な賃金体系や全体としての配分を考えるしかない。
- 給料表のありようについて、人事院勧告をベースにしながら新城市独自の考え方を入れたものを考えられないか、ということについて検討していく必要があるのではないかと思う。